

# 富山県におけるキジハタの漁獲実態 ～漁獲サイズや年齢、成長を明らかにする～

栽培・深層水課 主任研究員 飯野 浩太郎

## 1 背景・ねらい

キジハタは日本沿岸の岩礁域に生息する高級魚である。瀬戸内海や日本海西部(山口県、鳥取県)では種苗放流が行われており、富山県においても次世代の栽培漁業対象種として、種苗生産や放流技術の開発を進めている。

栽培漁業や資源管理を推進する上で、対象種の漁獲実態や生態に関する情報は不可欠であるが、富山県産キジハタに関する知見は少ない。

本研究では、富山県におけるキジハタの漁獲量や漁獲サイズを把握するとともに、年齢と成長の関係、成熟、性比を明らかにした。

## 2 成果の概要

富山県におけるキジハタの漁獲量は2006年以降14～41トンで推移し、2015年以降は30トン前後であった。定置網や刺網での漁獲が多く、漁獲サイズの主体は24～25cmであった。漁法別および月別にみると、刺網では4～8月、11～3月に、延縄・釣りでは周年にわたり、大型個体が漁獲される割合が高かった(図1)。

2015年10月～2018年12月にかけて県内で採捕されたキジハタ344個体を用いて、全長、体重、生殖腺重量の測定、耳石輪紋解析による年齢査定、性別の判定を行った。輪紋判読が可能であった317個体について、年齢と成長の関係を調べたところ、von Bertalanffyの成長式は $TL(mm)=438[1 - e^{-0.160(t+1.90)}]$ で表され、2、3、4、5および6歳でそれぞれ20.3、23.8、26.8、29.3および31.4cmと算出された(図2)。漁獲の主体である24～25cmの個体は3～5歳魚が多く、放流種苗が漁獲サイズに達するまで少なくとも3年かかることが分かった。メスの生殖腺重量指数(生殖腺重量/体重×100)は、7～8月に高くなり、オスは7～8月でも低いままであった。サイズ別に性比を見ると、35cm未満では99%がメスであり、35cm以上ではメスが57%、オスが43%であった(図3)。

## 3 成果の活用面・留意点

本研究で得られた成果は、放流効果の算出や資源管理の実施において、基礎情報としての活用が期待される。

## 4 問い合わせ先

富山県農林水産総合技術センター水産研究所 栽培・深層水課  
担当：飯野 浩太郎  
TEL：076-475-0036

(参考) 具体的データ

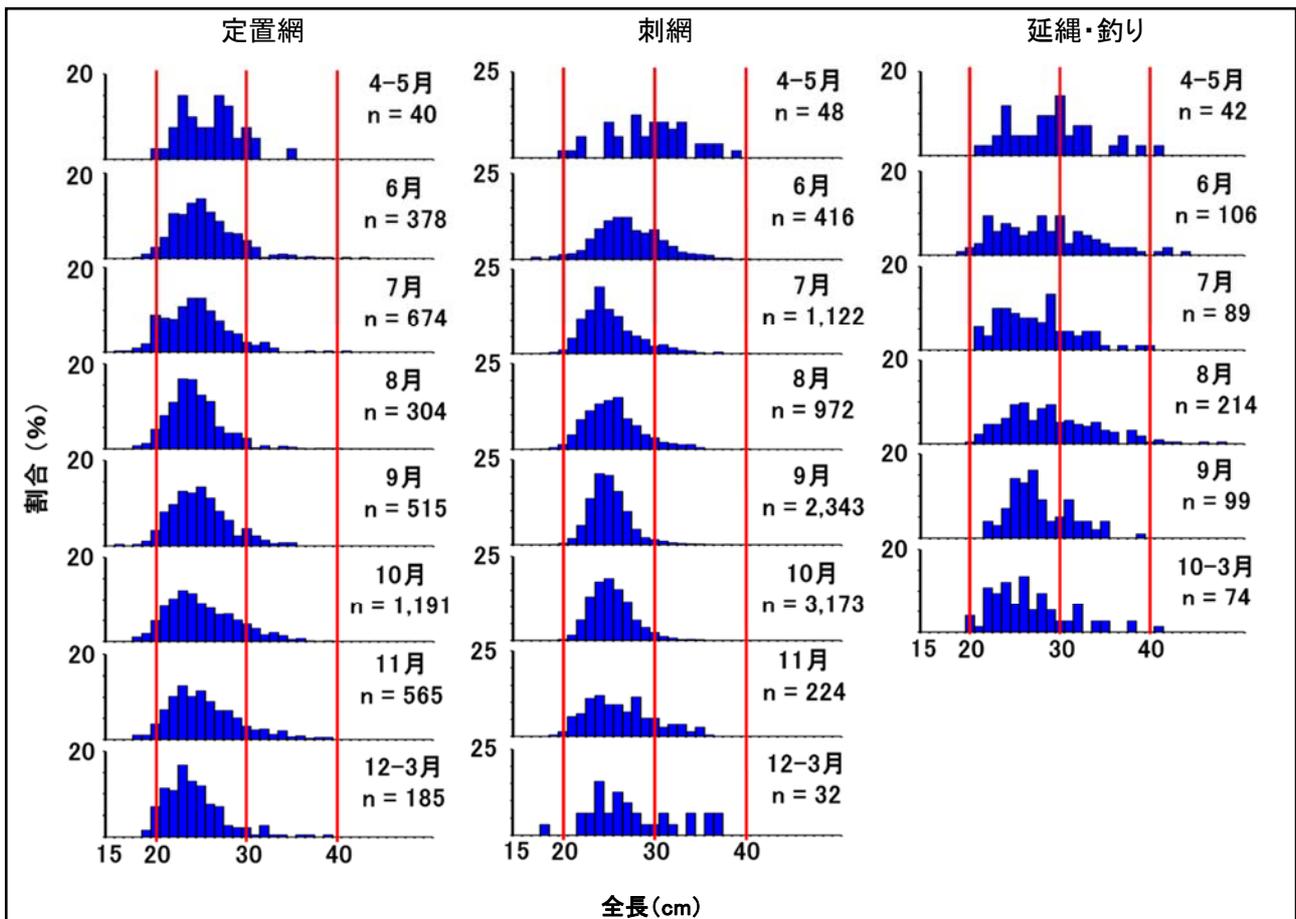


図1 月別全長組成 (2012~2017年)

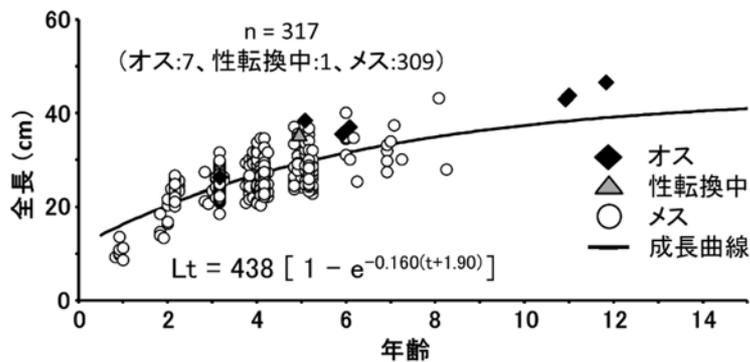


図2 年齢と全長の関係および von Bertalanffy の成長式

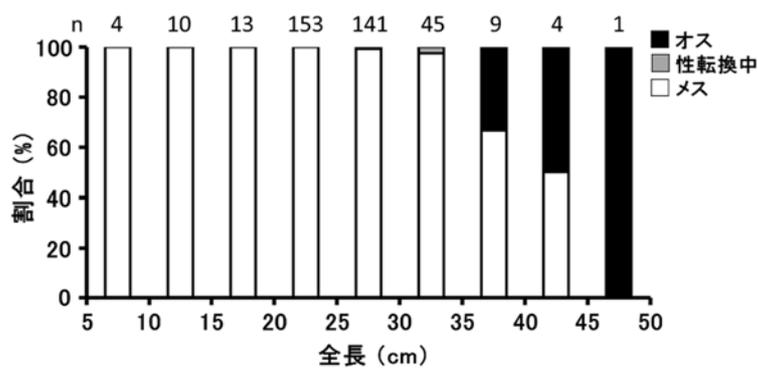


図3 サイズ別の性比